

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年10月2日

【評価実施概要】

事業所番号	4076600081
法人名	社会福祉法人 恵愛会
事業所名	グループホーム ローズハウスいしずえ
所在地 (電話番号)	福岡県朝倉市入地 2728-1 (電 話) 0946-52-1116

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2 - 2 - 51		
訪問調査日	平成20年9月18日	評価確定日	平成20年11月4日

情報提供票より(20年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 12人, 常勤兼務 1人, 常勤換算	12人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	2 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	220 円	昼食 390 円
	夕食	390 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 87.8 歳	最低 77 歳	最高 99 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	甘木中央病院 ・ 久保山脳神経外科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな田園地帯に建てられたホームは併設の特別養護老人ホームと共に地域との関わりを大切に夏祭りや文化祭等にて地域との交流を図っている。台風時にはホームを地域の方の避難場所に提供できるよう働きかけている。ホームの造りは和と洋が上手く折衷され廊下やリビングが広くゆったりと過ごせる環境であり居室には其々にトイレ、洗面所が設けてありプライバシーが保たれる工夫とベッドとくつろぐスペースに間仕切りがされており、居住空間にも配慮がなされている。ベランダや居室の窓から薔薇園が望め四季折々の花も楽しむことができる。その中で暮らす利用者はゆったりした時間を過ごし、本人のペースで生活しており、職員の暖かく親身な援助にて安心して暮らしている。

重点項目への取り組み状況

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善点を運営推進会議、職員会議にて報告しホーム関係者と共にできるところから改善を行っている。理念を見直し地域との関わりを明らかにしたものに作り上げた。また、成年後見制度の勉強会の強化を行い職員の周知に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価、外部評価の意義等は管理者から職員に説明をし、各ユニットで項目を確認し意見を出し合い再度会議を開き話し合った。前回の評価結果も検討を行い改善に向けての話し合いと実践に取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	おおまかに2ヶ月に1回開催しており、地域との連携を図り情報交換を行ったり、全家族へ声をかけ多くの家族が出席している。会議の内容は利用者の暮らしぶりやホームの状況報告は元より、職員が積極的に関わり、関係者と共に勉強会を開き諸々の議題を提議し研修方式を取っている。その中で活発に意見交換等を行いホームと地域の交流の場となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部8,9)
重点項目	家族の面会時に管理者、職員が声をかけ意見、要望等表出できるよう心がけている。また、運営推進会議を活用しその中で、ホームの状況や事故報告等を行い更に話しやすい環境を作っている。併設の施設も苦情相談の窓口となり、窓口の案内を掲示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に入会していないが、地域の花見、ゲートボール大会や小、中学校の運動会に利用者と共に参加したり、地域の文化祭に利用者の作品を出展することは積極的に行っている。また、併設の施設との合同の夏祭りに地域の方を招き交流を深めている。

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	開設当初よりあった理念を見直し、地域との関わりを折り込んだ内容の理念を、管理者、職員全員で話し合い作り上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、事務所、リビング等に掲示し誰でも目に付き確認できるようになっている。職員は毎朝唱和を行い、利用者個々がその人らしい生活を送れるように心がけ、よい関係の構築に努めている。		
2.地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には入会していないが、運営推進会議に地域からの出席者が多く、情報収集を行い花見やゲートボール大会、文化祭等に利用者、職員が参加し交流を図っている。併設の施設との合同の夏祭りに地域の方を招き更なる交流の機会を作っている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を管理者が職員に説明し、各ユニットにて項目を意見を出しあい、再度会議を開き話し合った。改善点に於いても全員で話し合い改選に向けて取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており出席者は市の担当者、地域からは老人会会長、区長、民生委員等であり家族へは全家族へ声をかけ出席者が多い。利用者、法人関係者、職員等にて活発な意見交換があり、地域の情報交換の場となっている。会議の議長は職員の輪番制としており、当番に当たった職員がテーマを決め会議の進行を行っている。		

グループホーム ローズハウスいしずえ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の他にも何か問題が生じた時疑問点があった場合は相談している。併設の施設内の在宅サポート支援センターとも情報を共有し市と関わっている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホーム内にて研修を行った。また、事業所協議会でのセミナーにも出席し内部で伝達報告を行い、職員への周知を図っている。パンフレットを準備し必要があれば説明できるようにしている。		
4.理念を实践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には家族に必ず声をかけ本人の状況を報告している。状態の変化があった場合等は電話にて伝えている。運営推進会議に大多数の家族が出席する為、報告や意見交換の場となっている。2ヶ月に1回はふれあい通信を発行し家族に渡している。金銭管理に関しては、立替とし利用料と共に報告し徴収の形を取っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には職員は必ず声をかけ、意見や要望を聴き取る姿勢を基本にしている。また運営推進会議にて意見の聴き取りを行い、ホームで話し合い報告している。苦情相談窓口を併設の施設にもし、その施設の窓口も玄関に掲示し対応している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での異動はまれにあるが、利用者との関わりはユニット間で相互にある為、ダメージを与えないよう配慮している。離職者があった場合は、管理者を交え1～2ヶ月程かけ引継をしているが連絡ノート等に情報を記録し全職員が利用者の把握をしている為ダメージは少ない。運営推進会議にて異動等があれば報告をしている。		

グループホーム ローズハウスいしずえ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関しては法人が行い、配属の希望を取っている。年齢、性別等の条件は無い。職員の特技や趣味を活かし日頃の業務で発揮できるよう配慮している。また、学習する機会もありスキルアップを図ることができる。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体で1年に1～2回研修を行っており全員が参加し人権に関しての学習の機会を設けている。特に言葉遣いや目上の方に対する態度等法人の方針があり職員は理解し日々のケアにて心がけている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で年間計画を立て職員は研修を受けている。勤務の都合上出席できない職員には資料の回覧、サインにて確認している。ホーム独自の研修も1ヶ月に1回は実施しケアの改善等話し合っている。外部の研修は必要に応じ積極的に参加できるよう業務として取り扱い報告書を作成し、全職員に周知を図っている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し研修等にて他のホームとの情報交換を行っている。各ホームの施設見学が予定されており、職員が交代で参加することになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望者が入院していることが多く入院先に管理者が出向き本人、家族から情報を聴き取っている。また、待機者へ電話にて会話をし情報収集しているが、本人、家族が見学に訪れるが体験利用等は受け入れ体制が無くホームで過ごし馴染むまでには至っていない。	○	本人、家族と顔を合わせる機会はあるが、職員と馴染みの関係になる以前に入所になることが多い。本人の不安を取り除き、馴染みの関係を構築することが望まれる。
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている	利用者が昔の風習や慣わしを職員に話し四季折々の行事や普段の生活に取り入れている。また、特技や趣味を引き出し日常生活に活かせるよう支援している。		
関係					
1.一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や家族からの情報から把握している。表現しづらい利用者の表情から把握しているが、支援記録が申し送りノート兼ねており意向が解りづらい。アセスメントはADLの評価が主になっている。	○	本人、家族から口頭で聴き取り記録として残していない為、思いや意向をはっきり確認できない。アセスメントや支援経過記録に本人・家族の意向・ことばを記録しいつでも確認することができるようにすることが望まれる。
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、本人、家族から意向を聴き取り計画を作成している。主治医からは月に1回の往診時に意見や助言等を聴き取っているが、サービス担当者会議録の記録が無く、ニーズに対しての長期目標、短期目標がはっきり確認できない。	○	本人、家族から意向を聴き取り計画を作成しているものの、本人の意向を書き留めた記録が確認できない為、アセスメントや支援経過記録を充実し本人の意向を明らかにし、サービスを提供する際にはサービス担当者会議を開き関係者全員が関わった計画書を作成することが望まれる。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回の見直しと状態の変化に伴う見直しを行っている。担当者が把握しており計画作成担当者で話し合っているが、目標に沿った見直しになっていないものや見直し後も計画が殆ど変わっていないものがある。	○	目標をはっきり定め、本人、家族共に再度話し合うことによりモニタリングの意義も明らかになり本人の意向やニーズの変化を細やかに察知することができるのではないだろうか。

グループホーム ローズハウスいしずえ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じ、利用者の外出の支援や家族の宿泊の受け入れを行っている。また、台風時に地域の避難場所としてホームを開放している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医との関係を継続できるよう支援している。本人、家族の希望があれば協力医への変更もある。協力医が1ヶ月に1回往診に訪れ利用者の健康管理を行っている。その他の主治医とは電話にて指示や助言をもらい受診の場合は家族の協力を得ている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に終末期における確認書を家族と交わしている。現在のところ、重度化した場合は入院を希望する利用者が多い。ホームとして看取りケアに関して検討している途中である。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人格を尊重し言葉かけや言葉使いに注意を払っている。本人の名前や写真等を用いる際には同意書を交わしプライバシーの保護に努めている。個人の記録物は事務所の棚に保管し目に触れない工夫をしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れは決まっているが、本人と会話をすることや表情から察知できるようコミュニケーションを取ることに心がけ、できる限り本人の過ごし方に沿っている。		

グループホーム ローズハウスいしずえ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや味付け、配膳等利用者のできる力を発揮し職員は共に支度を行っているが、食事中は介助者が1人で見守りをしており、同席しての食事が摂られていない。	○	利用者と職員が同じ食事を一緒に摂ることで、会話が弾み家族のようなかわいらしき深まり、味付けや調理具合などを職員が知り、利用者の好みや摂取状況も把握できるのではないだろうか。ホームが利用者にとって自分の自宅のような生活の場であることを考慮し、家庭・家族のように職員一人でも一緒に同じ食事をされることを検討してはどうか。
26	59	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	おおまかに入浴日と時間の決まりは設けているが、本人が希望すれば、いつでも入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	植木や観葉植物等の水遣り、調理の下ごしらえ、テーブル上の掃除等本人のできる力を活かした役割がある。生花を生けたり折り紙で作品を作り上げる等特技を活かし日々の暮らしを楽しんでいる。また、季節ごとの行事や外出も楽しみになっており、初詣、花見、誕生会、夏祭り等気晴らしの支援を行っている。		
28	63	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの前に広がる薔薇園やホームの周りの散歩は日課になっている。時折、福祉バスに乗って職員と共に外出の機会があるが、利用者一人ひとりの状態によっては外出の頻度にばらつきがある。	○	薔薇園や敷地内の散歩に留まらず、利用者個々の希望に沿いスーパーやコンビニでの買い物や近隣への外出を本人の行きたいときに自由に行けるよう工夫をしてはどうか。
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることへの弊害等は理解しているが、利用者の安全を考え止む終えず玄関は施錠している。	○	利用者の状態や習慣、動線を再度全員で確認する等で何らかの対応を行い、鍵をかけられ外に自由に出られない利用者の不安感や地域への印象をも考慮し日中鍵をかけない工夫を希望する。
30	73	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に2回併設の施設と合同で夜間想定を含めた避難訓練を実施している。夜間帯に於いては毎日訓練を行っている(夜間は職員のみ)また、日頃より地域の消防団との連携が取れており地域の協力体制もある。		

グループホーム ローズハウスいしずえ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が献立を作成しホームで調理している。利用者個々の食事、水分摂取量のチェック、記録をし体調管理を行っている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い廊下、リビングの空間にはソファが置かれ、いつでも思い思いの時間が作れるよう工夫をしている。食堂から続くベランダからの季節ごとの花や景色を楽しめる。ホーム内には季節の花や絵画が飾られ、心が和む環境作りをしている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個々に居室には、馴染みのものや、使い慣れた筆筒、椅子等が持ち込まれ其々の暮らしが入居前から継続されている。どの部屋にも洗面台とトイレがあり個別の生活空間が保たれ気持ちよく過ごせる居室となっている。		